

岡山県庁舎

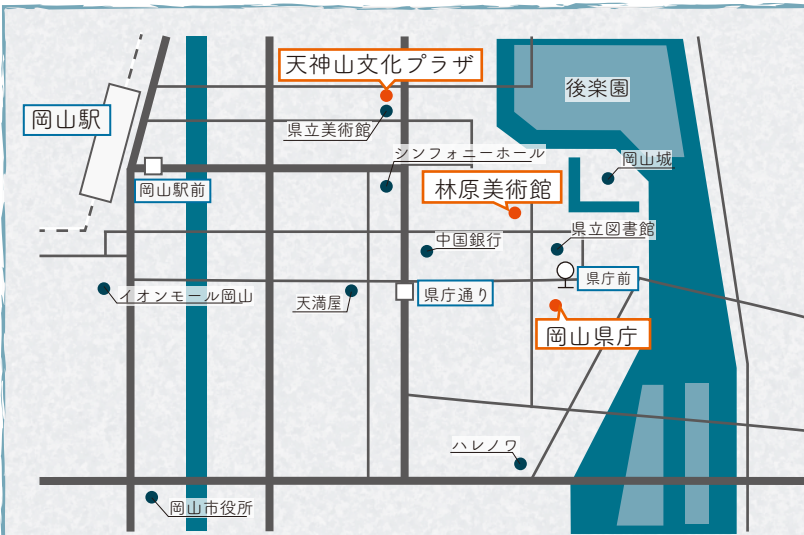
建築の

しおり Architecture Guidebook

Okayama Prefectural Government Building



岡山県庁舎



Access

- ・JR 岡山駅より徒歩でお越しの方
JR 岡山駅東口から約2 km、徒歩約 25 分
- ・JR 岡山駅からバスをご利用の方
岡 電 バス：県庁・岡電高屋行きに乗車
宇 野 バス：四御神行き、片上行き、瀬戸駅行き、
長岡・駅前行き whichever to board
岡 備 バス：西大寺行きに乗車
めぐりんバス：県庁めぐりに乗車
いずれも「県庁前」停留所で下車
- ・JR 岡山駅より路面電車でお越しの方
東山行きに乗車 「県庁通り」停車場で下車

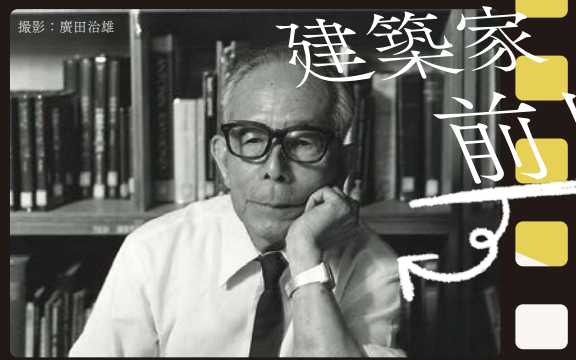
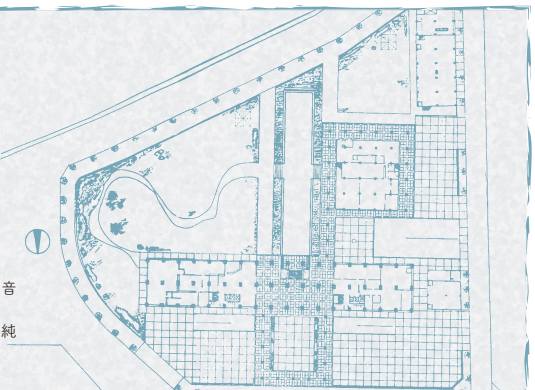
Contact

〒700-8570
岡山県岡山市北区内山下2丁目4-6 TEL.086-226-7499 (建築指導課)

受付時間: 8時30分から17時15分まで(土日祝日及び12月29日～1月3日はお休み)

URL: <https://www.pref.okayama.jp/>

デザイン作成協力: 岡山大学
担当教員 川西敦史 建築設計学研究室 修士1年 杉耕太
堀裕典 学部4年 吉田和音
工学部工学科環境・社会基盤系
都市環境創成コース 3年 磯山亜純
発行: 岡山県土木部都市局建築指導課 令和6年3月発行



建築家前川國男って?

Kunio Maekawa

前川國男は、ここ岡山県庁舎の設計者です。高校時代に建築に興味を持ちはじめ、東京帝国大学(現/東京大学)工学部建築学科を卒業後、モダニズム建築の先駆者である建築家ル・コルビュジェのもとで近代建築の原理を学びました。帰国後、アントニン・レーモンドの事務所を経て、1935年に「前川國男建築設計事務所」を設立しました。前川國男が手掛けた作品は200以上もあり、その中でも公共施設の割合が高く、誰もが知らずのうちに身近な前川建築に触れているかもしれません。前川國男、そして事務所員のみんなの様々な取り組みによって、その独自の方法で近代建築の考え方を日本へ定着させるために躍進し続け、モダニズム建築の旗手と称されています。



林原美術館

岡山県における代表建築

岡山県にある前川建築としては岡山県庁舎の他に林原美術館と岡山県天神山文化プラザがあります。

▶ 林原美術館
岡山の実業家である林原一郎の遺志を継ぎ、昭和38年に岡山美術館として完成しました。この建物は前川國男にとって初めての美術館建築でもあります。手作業で積み上げられた不揃いな形状のレンガが特徴的で、周囲と調和しています。



▶ 岡山県天神山文化プラザ
昭和37年に岡山県総合文化センターという名称で、図書館・展示室・ホールといった複合文化施設として開設しました。1階と2階をT字に直行させたような外観で、コンクリート仕上げでありながら鳥柱と名付けられたレリーフやデザイン的な空調の吹出口など芸術的な部分も魅力的です。



天神山文化プラザ

MAPに
Let's go!!

前川國男が岡山県庁舎に込めたこだわりを解説していきます



建築を学ぶ大学生ケン子ちゃん



ガイドマップ

建築のみどころ

マッポも見ながら探していこう！

全部1Fから見えます！



◀コンクリート手摺り

鉄筋コンクリートの可能性を追求し、岡山県庁舎に取り入れた工業化の取り組みの一つ。手摺り天端の角をアールとしたり、断面から直角をなくしたりするようにデザインされ、コンクリートの冷たい印象を和らげています。前川建築特有の技術的・機能的な面から建築を追求した結果、この断面のデザインが生まれました。

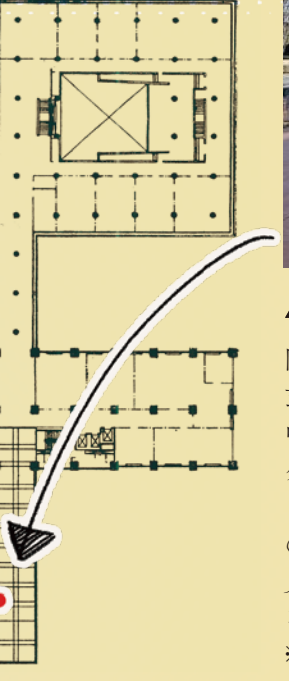


▲ピロティ

戦後の民主主義を象徴する庁舎として計画された岡山県庁舎の中で、本庁舎本館の出入口は、広く開放された空間となっています。3層まで床を持ち上げることで地上部分を広々と開放し、ここを通過して本庁舎本館の東西、そして地階へと、周囲からアクセスしやすく県民の家として来庁者を迎えます。

杉板でコンクリートの型取りをしているから木の質感がしかり残ってやわらかい印象に

回廊は歩道の上までせり出ているから、通りがかっただけでも迫力を感じます！



▲回廊

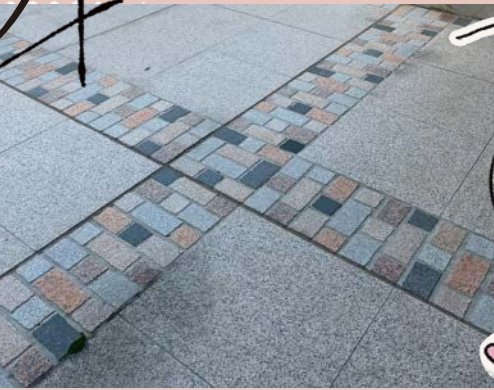
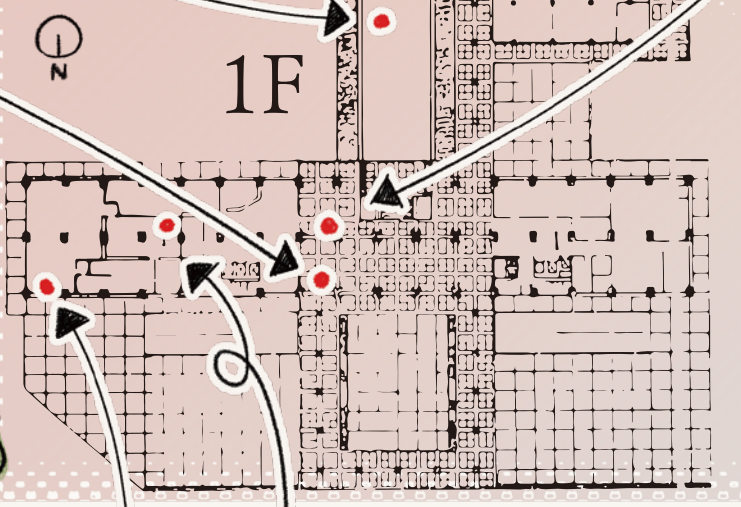
岡山県庁舎の玄関底の役割を果たすポーチとして、建物の玄関を明確に印象付けています。コの字型に配置された空中回廊を3階の床の高さまで持ち上げ、広大な空間をアーケードとして、開放的なアプローチを演出しています。南を向くと、ピロティを通じて中庭まで見通すことができ、前川國男の独創性を見ることができる場所の一つです。回廊を下から見上げた時に見える照明器具は、常夜灯としての機能だけでなく16色の調光によって幻想的な雰囲気を演出します。
※安全管理上、一般の方の立入りは禁止しています。



◀サンクンガーデン

昭和32年の建設当時は、北側の回廊からピロティを抜けて、庭園、更には旭川まで望むことができました。建物からの眺望や通風・採光を確保するという役割を担い、現在は再整備として各所にベンチを設置することで、誰でも入れてくつろぐことのできるオープンスペースになっています。

地表面より掘り下げられているから開放感を保ちつつ落ちつき空間に!!



さりげない色使いがおしゃれ...

一番下には通気用ブロックが使われている

▲デザイン石畳み

岡山県庁敷地内の外構と地階床の一部に、かわいらしいテクスチャが特徴の人研ぎ石と、硬度の高い御影石を使用してグリッド状(正方形)にデザインされた石貼りの床があります。数種類の色で構成されたデザインによって岡山県庁舎に暖かな印象を与えています。

▶モザイク調煉瓦壁

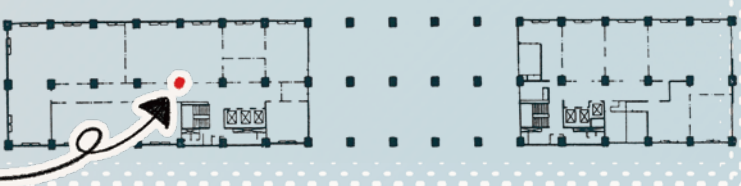
外装材のレンガブロックを用い、橙色を基調とした5~6色のカラーバリエーションによって岡山県庁舎に彩りをもたらしています。前川建築の特徴の一つである、表面にタイルを貼り付けるのではなく積み上げて打ち込むという形をとっており、改修工事を経っていますが、意匠性を損なうことなく竣工当時のデザインが再現されています。



◀2階梁跡

本庁舎本館1階にある県民室のコンクリート柱を少し見上げると、梁や床版の痕跡が見られます。平成3年の東棟増築に合わせて2階の梁と床版を撤去することによって天井高が高くなり、広く開放的な空間となっています。コンクリート柱に取り付けられている褐色系の照明器具もそのタイミングで設置されたものです。

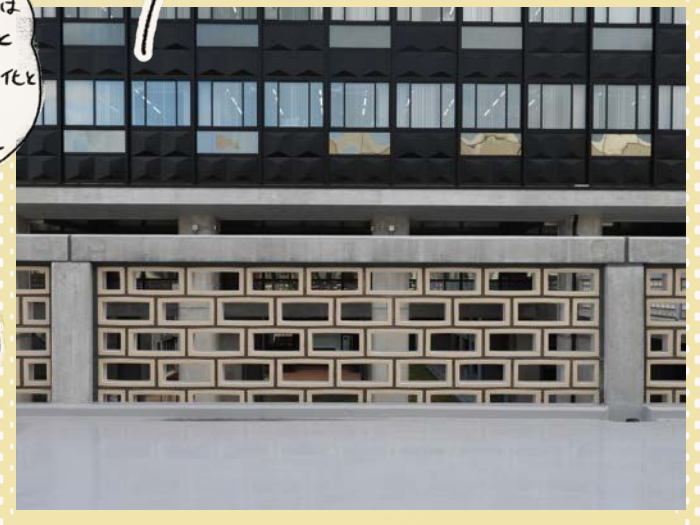
備前焼の装飾とシンプルなコンクリート柱がマッチしてる!



◀庁舎を印象づける外壁

本庁舎本館と東棟の外装に用いられている外壁は、漆黒カラーを纏い、重厚で力強い印象を生み出しています。建物本体の構造上の壁ではない造りとなっており、庁舎建築として全国で初めて岡山県庁舎に採用されました。パネルを折り曲げることで強度を高めつつ、凹凸によってできる表情豊かな外壁を創り出しています。現在の腰窓のガラス面内部には岡山県産の焼杉を使用し、正面から見た外観にもデザイン性をもたらしています。

耐震化工事ではスチール→アルミに変更され、軽量化はサッシの性能も向上してるんだ~



▲ホローブリック

前川建築で多く用いられているブリーズ・ソレイユ(日よけ)を目的として開発された、中を空洞にしたレンガです。岡山県庁舎では回廊を含む本庁舎本館、東棟、議会議棟旧館までの外周3階バルコニーに、一筆書きのようにぐるりと巡るように設けられており、屋内外につながりをもたらされています。

人の流れをモトに考案された、前川建築の"一筆書き"。岡山の林原美術館でも取り入れられています!



どきたばかりの頃はなんと旭川まで望めたみたいだね!



人の流れ...